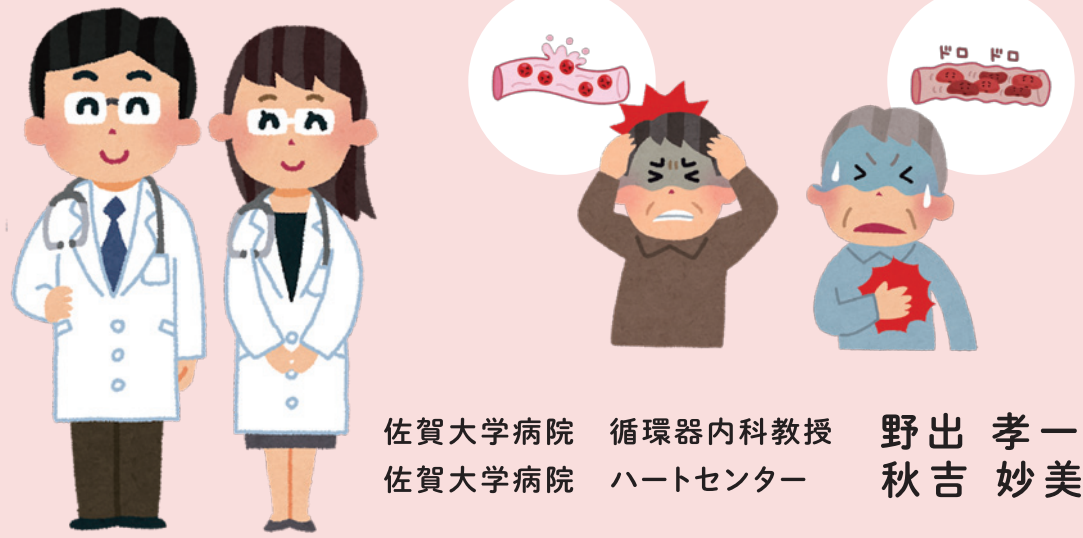


頰動脈超音波検査のすすめ

～動脈硬化を早期発見して血管の病気を防ごう!～



野出 孝一 秋吉 妙美
佐賀大学病院 循環器内科教授
佐賀大学病院 ハートセンター

動脈硬化とは

最近、「動脈硬化」という言葉が広く知られるようになってきました。でも「動脈硬化」がどういったものか、どのような病気を引き起こすのか、本当のところはよくわからない、という方が多いのではないのでしょうか。

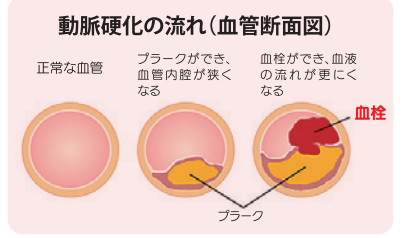
「動脈硬化」とはわかりやすくいうと血管の老化です。動脈の壁が厚くなったり、硬くなったりして本来の構造が壊れ、働きが悪くなる病変をいい、病名ではありません。

老化というと、高齢者に起こることと思われるかもしれませんが、血管の老化は子どもの頃からすでに始まり、30歳頃には、かなりの人の血管で軽い動脈硬化がみられ、40歳頃には、ほとんどすべての人の血管が動脈硬化状態になると言われています。

そして、この加齢による変化に加え、血液中が増えすぎた悪玉コレステロール(LDLコレステロール)が動脈硬化の進行を加速させるのです。

悪玉コレステロールは、血管の壁に入り込むという、やっかいな性質を持っています。コレステロールが入り込むと血管の壁は厚くなり、弾力性を失います。また、コレステロールが血管の壁に蓄積することによって粥腫(じゆくしゆ)の

ラーク)と呼ばれる塊を作ります。そして、このプラークが何かの刺激で破れると、その部位を修復するため、血小板でかさぶたが作られます。これが血栓と呼ばれるもので、血流が完全に妨げられると、その先の組織に酸素や栄養が行き届かなくなり、ますます。



動脈硬化を進行させる危険因子

実は、動脈硬化にはコレステロール以外にも、さまざまな危険因子が関係しています。動脈硬化の危険因子には「性別(男性)」「加齢」のように、自分ではどうにもならないものから、「高血圧」「高脂血症」「喫煙」「肥満(特に内臓脂肪型肥満)」「糖尿病」「ストレス」などのように、治療や生活習慣の改善でコントロールできるものもあります。こうした危険因子を多く持つ人ほど、動脈硬化の進行が速まります。このような多くの要因によって進行が加速することも動脈硬化の怖さのひとつなのです。

動脈硬化が引き起こす病気

動脈硬化が起こりやすいのは、心臓の栄養血管である冠動脈、大動脈、および脳、頸部、腎臓、内臓、手足の動脈とされています。

- 狭心症…心臓の冠動脈が狭くなることで起こる
- 心筋梗塞…心臓の冠動脈が詰まることで起こる
- 脳出血…脳の血管が破れることで起こる
- 脳梗塞…脳の血管が詰まることで起こる
- 閉塞性動脈硬化症…足の血管が狭くなったり、詰まることで起こる

といった病気を引き起こします。いずれも生命を脅かしたり、日常生活に支障を及ぼしたりする怖い病気です。そしてもう一つ動脈硬化の怖い点は、自覚症状がなく進行するという点です。



頰動脈内部の状態がよくわかる「頰動脈超音波検査」

そこで、病気が進む前に動脈硬化の検査を受け、早期発見することが大事です。

血管の状態をチェックする検査の一つに頰動脈超音波検査があります。頰動脈超音波検査では、血管壁の厚さ、プラークの有無や状態を調べることにより、動脈硬化の程度を判定します。

- 20分程度の検査であり、外来で手軽に検査を受けられる。
- 放射線の被爆がない。
- 痛みが無い。

などがあげられます。頰動脈は動脈硬化の好発部位であるため、頰動脈における動脈硬化を評価することで全身の動脈硬化の指標となり、狭心症や心筋梗塞の発症し易さも反映します。

また、頰動脈は脳に血液を送る血管ですので、頰動脈にできたプラークが破綻して、脳に飛んでいき、脳梗塞の原因となることがあります。頰動脈超音波検査では、破綻しやすいプラークかどうかの評価ができるの

頰動脈超音波検査の実際

頰動脈超音波検査では、大動脈から分岐した頰動脈や椎骨動脈をくわしくみていきます。

仰向けに寝ていただき、首にゼリールをぬり、プローブ(探触子)と呼ばれる検査機器を首に当てて上下させたり向きを変えたりしながら頰動脈全体を観察していきます。血管の厚さと内腔の状態をみることで、動脈硬化によって厚くなった血管壁や、壁にできたプラークや血栓、石灰化などがわかります。

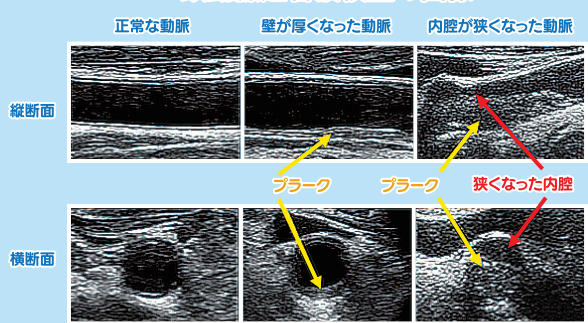
また、血管内腔の面積と壁のプラーク部分の面積との比率を計算して、血管がどの程度狭くなっているか(狭窄率)も調べることができます。



動脈硬化の早期発見を

昔から、「人は血管とともに老いる」と言われてきました。血管の老化がその人の寿命や健康状態を決める

頰動脈超音波検査の画像



という意味です。しかし、動脈硬化の治療をしていけば、動脈硬化の進行スピードを抑えられます。さらに近年、動脈硬化そのものも、ある程度は治療できる可能性があることもわかってきました。

まず肝心なことは動脈硬化による病気を予防する事です。現在の状態を知ること、今後の治療の進め方や、生活習慣をどのように改善していけば良いかが分かれます。